

京浜港共同ビジョン（中間のまとめ） ～ 概 要 版～

《京浜港共同ビジョンの位置づけ》

- 三港を一体化していくための京浜港の港湾経営と港湾整備の基本的方針と施策の方向性（ロードマップ）
- 平成20年3月21日の三首長の基本合意に基づき策定

I 現状と課題

- アジア諸港の躍進等により日本港湾の国際的地位の低下

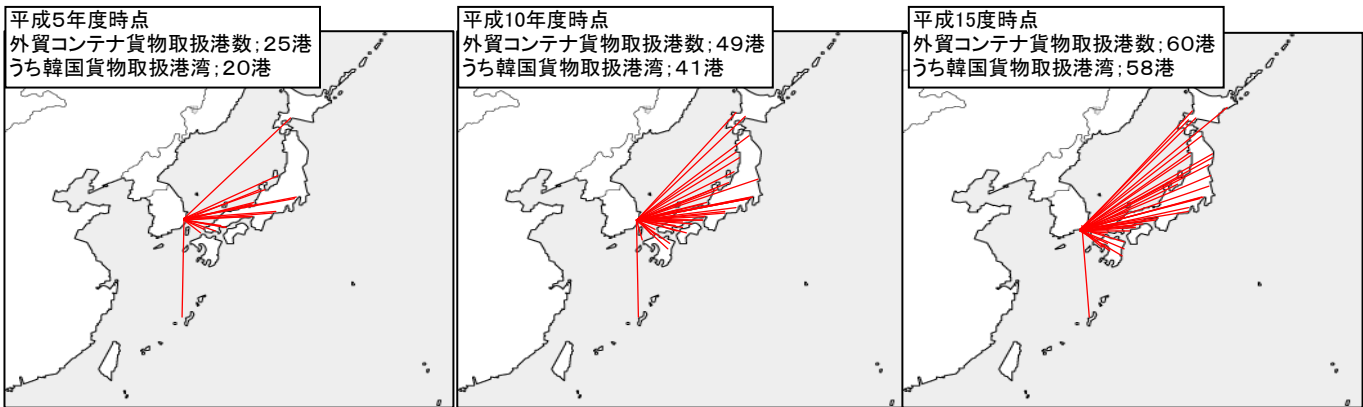


- このまま放置すれば、国際基幹航路から外れ、我が国経済にも深刻な影響

基幹航路	1998年	2008年
東京港寄港	25航路	22航路
横浜港寄港	26航路	21航路

※基幹航路の寄港状況

※フィーダーポート化の現状



II 基本方針

<京浜港の目指す姿>

○ 政策目標

京浜港の国際競争力強化を図ることで、我が国産業の活性化、生活の安定化を確保する。

○ 将来像

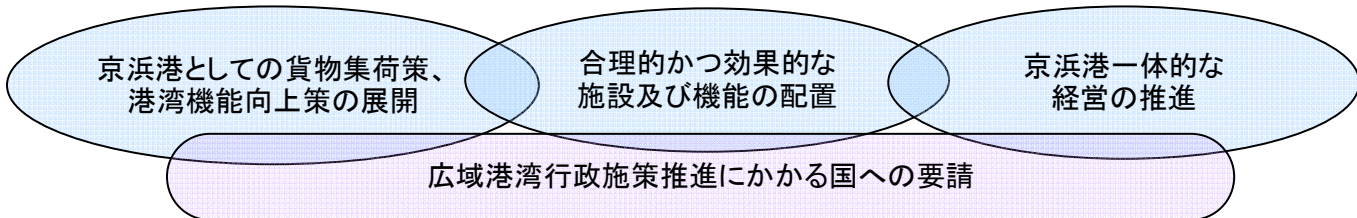
我が国最大の総合港湾として、エネルギー供給や生産、流通・商業活動を支える物資の供給など多様な要請に応えながら、釜山港等と対峙する日本のハブポートであるとともに、北米航路における東アジアの国際ハブポートとなる。

○ コンテナ物流機能強化に向けたターゲット

- 【ターゲットⅠ】 東日本のメインポート機能の維持
- 【ターゲットⅡ】 釜山港等に対峙する日本のハブポートの実現
- 【ターゲットⅢ】 東アジアの国際ハブポートの形成

○ 目指す姿の実現に向けた基本戦略等

目指す姿（ターゲット）の実現に向け、「3つの基本戦略」に取り組むとともに「国への要請」を実施していく。



III 施策の方向性

基本戦略1 京浜港としての貨物集荷策、港湾機能向上策の展開

- 港湾利用コストの低減： 三港一体的な運営によるコスト低減など
- 国内貨物輸送網の充実強化： 内航フィーダー輸送の活性化など
- 利用者に選択される使いやすい港づくり： 三港内ネットワークの充実・強化など

基本戦略2 合理的かつ効果的な施設及び機能の配置

- 求められる機能配置（ゾーニング）の方向性

基本戦略3 京浜港の一体的な経営の推進

- 実質的な一港化： 地方自治法に基づく法定協議会の設置など
- 管理運営の一体化： 東京港埠頭株式会社と横浜港埠頭公社の連携強化など
- ポートオーソリティを視野に入れた取り組み： 港湾経営主体のあり方の検討など
- 環境対策、防災対策等にかかる広域的な取り組み： 緑化等の推進など

● 広域港湾行政施策推進にかかる国への要請

- ・京浜港の管理・運営を担う組織体制の確立
- ・京浜港における利用者サービスの充実・強化
- ・既存の港湾施設の維持や高規格な港湾